# 奈良の施設園芸と施肥の近代化（完）

奈良県経済連
岡　田　卓　穂

**奈良県におけるいちごの施肥体系例（ハウス半促成とＣＤＵ化成）**

耕起畦作どき ―― 定　植　前 ―― (マルチ) ―― 第１花房開花期（以後果房毎開花期から成熟まで）

| 苦土石灰 120kg<br>熔りん 30<br>（骨粉 60）<br>（全層施肥） | ＞ | ＣＤＵ燐加安<br>Ｓ６０４<br>５０kg<br>（全層施肥） | ＞ | くみあい液肥<br>400 ～ 500倍<br>または<br>大塚ハウス肥料<br>400 ～ 500倍<br>チューブ灌水 | ＞（灌水回数多い場合は稀薄液を使用する） |
|---|---|---|---|---|---|

### 3.　マスクメロンをとり入れた経営近代化

夏休みは学校だけでなく，ハウス栽培でも休作するものがある。第２図にみるように，いちごハウスは７月から９月まであき屋となる。

元肥 ―― 6月下旬～7月上旬 ―― 7月中旬定植 ―― (摘芯)(交配) ―― 9月下旬収穫

（メロンの育苗）　砂または燻たん育苗

（いちごの畦を合せて一条植）　無支柱マルチング

この間ハウス肥料灌水

↑奈良のマスクメロン

最近までは，いちご跡に稲を植え，ハウスは水の中で骸骨を曝らしていたが，ハウスの高度利用の一つとして，いちご跡にメロンを植付け，高温対策と省力有利な経営に変っている。ここにその実例を紹介すると，別図の通りである。

栽培の概要はマスクメロン（サンライズ），その他のメロンを定植する。前者はいちご跡の２畦を１畦に合植する。このとき元肥としてＣＤＵ燐加安（Ｓ604号，Ｓ555号）を10a，60kg全層施肥し，あとはビニールマルチのチューブで灌水施肥する。

摘芯すれば１株から４条のツルを出し，無支柱で１ツル１個着果させ，10a 2,400個は収穫できる。防除はタンソ，ボト，ベツ，ウドンコ病のうち１，２種に注意するだけで，極めて少肥省力で短期間に40～50万円の粗収入をあげることができる。

今や緩効性肥料の開発流通によって，如何なる栽培型においても，施肥期や施肥位置が合理的にできるようになり，急速に普及しつつある。

施設園芸の近代化，施肥の合理化から，今後は防除の近代化に向うであろう，と筆者は考えている。

奈良の電照いちご→